

1

(2・5 I・8 I・8 II・8 III 各完答)

1 ウ
2 量
3 質
従来の言

4 ア
5 言
6 エ
工

7 ステージ

8 I イ
II 認
III 繰
グ
し

9 a 達成
b 放課後
c 音節

d 参加

2

(4・5 各完答)

1 a 景色
b 自由帳
c 始終

2 イ
3 (記述題)
4 X 葉脈
Y 毛細血管

5 現る
6 と
7 横

8 いとこ同士
9 ウ
10 ア

11 に言った。

2

3 何を
するかわからない
澗が、
とわに
危害を加える
かもしれ
ない
ことを心配する
気持ち。

(同意可)

配点	
19	21 各2点×7=14点
23	6点
その他	各4点×20=80点
100点	

1

- 1 傍線を含む一文で「その要素の主なものを考えてみよう」と述べ、次段落に繋いでいた。この場合は「その」に対応した内容は直前にあると考え、文中の内容と各選択肢を比較して答えを選ぶ。その際、指示語の代わりに各選択肢の内容をあてはめて読み、文脈を確認すると答えの精度が上がるだろう。
- 2 同段落の「インプットの質と量」について書かれていることは容易につかめたと思うが、うっかり「質」と「量」をあべこべに答えないように気をつけたい。「たくさん聞いて、たくさん読まなくてはならない」とあり、「ただ、②だけでなく…」と続くことから②には「量」があてはまることがわかる。空らんにあてはめて確認する姿勢を徹底しよう。
- 3 傍線部を含む段落では「コミュニケーション上の目的をもたないインプット」は無意味だと述べているが、「従来の言語学習」の『繰り返し』の機会を与えるという点は「的外れではない」と評価していた。完全に「インプット」とはとらえていないのである。
- 4 空らんを含む一文を読むと「クラス替えの直後ならともかく」という表現があることに気づくだろう。「クラス替えの直後」とそうではないときでは何が異なるのかを考えよう。エは「授業の中で」と限定しているので不適である。
- 5 Iについて、文中の対比的な構造には常に注意を払いたい。傍線の直前の「この点」という表現から前段落との関わりを意識して読み進めれば、「外国語の授業」との対比であることに気づけるだろう。IIでは「子どもたちが持つであろう気持ち」にふさわしくないものを答えることに注意しよう。エは「対人型ゲーム」を行った場合に可能性として期待できるものであり、「子どもたち」の気持ちではない。
- 6 「〇〇感」「〇〇的」のような形の三字熟語は様々な文脈で広く使われる。目にした時に意味・イメージ・使い方を身につけていこう。(1)には「フロー状態」の説明に沿った(+)の言葉が、(2)には子どもたちが「自分から進んで取り組む様子」がわかる言葉があてはまるだろう、と見当をつけていけばよい。
- 7 「具体例」を探すことに注意したい。答えにあたる一文の直前をぬき出してしまわないように注意しよう。設問が何を、どのような形で要求しているのかを、慎重にとらえてほしい。
- 8 文章冒頭で「ゲームには、言語習得で大切だと思われる要素がいくつも詰まっていると考えられている」と述べ、そこから「言語学習」において不可欠の要素を「外国語でデジタル・ゲームを行う場合」をふまえて説明していた。また、後半で「目的のある」繰り返しの重要性にもふれていた。文章の全体構造を大きくとらえる意識もまた大切である。
- 9 a「達成」は「達」のしんによる部分や横棒の教に注意しよう。b「放課後」は「放」のつくりの部分で「又」としないように。c「音節」は文脈に沿って答えを引き出せるかどうかに加えて、「節」をうっかり「くさかんむり」にしないように気をつけよう。

2

- 1 それぞれ文脈に沿った漢字を適切に答えよう。a「景色」は「景」の「日」の部分で雑に書かないようにしたい。b「自由帳」は「帳」を「張」などの同音異字にしないように。c「始終」とはここでは「たえず、常に」という意味の言葉である。
- 2 なんとなくで選ばないように。「席替えの発表があった日」に伝えることなので、当然澗と隣の席になったことを伝えるだろう。確実に合わせて得点源としてほしい。
- 3 ここでの「とわ」に対する気持ちをまとめるにあたって、澗のことにはふれる必要があるだろう。「とわ」を心配する心情と、そのように感じてしまう事情をまとめればよい。「とわ」と澗が「親戚」であることにふれていても問題は無いが、解答らんに収まるレベルの長さに調整することもまた記述においては肝要である。
- 4 澗が「カレンダーの裏紙」に書いている数字や矢印の様子を示した表現を探す。「植物の…」「人間の…」のように見える、ということも手がかりとなるだろう。文章後半で「血管とも葉脈とも知れないものをかき続け…」とまとめて描かれているが、Yの指定条件は四字なので関連する表現を見つけてほしい。
- 5 「根本的な原因」を答える。「わずかの空き時間にもページを開く」とはもちろん読書をすることであるが、そうなったきっかけは澗の机を視界に入れたくないという気持ちであった。
- 6 原文は「まさかそんなこと(ないよね)」である。文中の葉菜ちゃんとのわのやりとりからは、変わり者の澗と自分の友達のとわが本当に「いとこ同士」であるのかどうか、葉菜ちゃんが確信を持つてとわに質問しているわけではない様子がかげえる。「半信半疑だが」とこ同士だと聞いたし…といった感じだとわに確認してみたのだろう。とわの目に映る葉菜ちゃんの様子は、そのままとわ自身の「澗といとこ同士」澗と関わりがある人間」と他人に知られたくないという気持ちの表れであるとも読み取れるだろう。「まさか(ない) (まい)」といった副詞の呼応に考えが及ぶと解きやすかっただろう。
- 7 「首を横に振る」というしぐさは実生活でも多用される否定の動作である。当然文章でも頻出の表現なのでしっかりおさえてほしい。
- 8 7とも関わりが深い問題である。学校生活において、変わり者の澗との関わりを他人に知られたくないのである。
- 9 (A)には「授業中の立ち歩き」に対する注意と考えれば「歩き回る」様子を示す「うろうろ」が入る。(B)には直後の「目を合わさない」と対応する「なかなか」が入る。(C)には安森先生に伝えるべきことを言いよどむ様子を示す「もごもご」が入る。
- 10 まずは河井先生と安森先生を区別し、そのうえで選択肢の内容と文中に書かれていることの照合を徹底しよう。
- 11 「算数の時間のテスト」の場面で、「先生はその声のまま決めつけるように言った」とあるのにその内容が書かれていなかったことは、通読時に気づけていただろうか。

以上